

今日の成果は過去の努力の結果であり、  
未来はこれからの努力で決まる。 稲盛和夫

我々は失敗にも報酬を与えている。そうしないと社員は  
新しい挑戦を避けるようになる。 山内 薄

夢は逃げない。逃げるのはいつも自分だ。 高橋 歩

一番多忙な人間が一番多くの時間を持つ。アレクサンドル

三人で道を歩いていれば他人の二人から必ず  
教えてもらうことがある。 孔子

必要なものは学歴ではなく学問だよ。  
学歴は過去の栄光。学問は現在に生きている。 田中角栄

生き残ったのは、強い者でも賢い者でもない。  
常に変化し続ける者である。 ダーウィン（進化論）

この半年間本社の玄関に添えられた偉人たちの名言格言の一部です。毎日目にして自分自身を鼓舞してきました。この一年日頃の感謝を込めて、この小冊子をお届けします。新年も思い通りのドラマが描けることをお祈りいたします。

平成28年正月 三興商事株式会社 代表取締役 嶋尻行雅

朝礼での週報10ヶ条抜粋

一 第92回箱根駅伝は青山学院大学が2年連続優勝を果たした。

駅伝の醍醐味は各区間に適材適所の選手を配置、選手の好不調を把握して起用する監督の手腕が挙げられる。我が社もチームワークを必要とするこの駅伝を見習ってひとつの目標に向かう組織力を高めていこう。

一 多くのスポーツの世界では一度負ければそこで終わりになる。しかし、我々業界はそのまま終われない。失敗したり、目標達成できなくてもその誤りに気づき、敗者復活戦に参加する道が用意されている。大切なことは間違いに気づいた時に直ちに改善して挑戦する生き方だ。

毎週朝礼で社員と自分に対して課題を投げかけています。

1602 嶋尻行雅

#### 朝礼での週報10ヶ条抜粋

一 順調に仕事が進んでいる時は勢いに乗って前に進めるがひとたび何かに躓くとそれまでの勢いが嘘のように止まり、マイナス面が表に出る。そこが分岐点。

苦難に遭った後、何に気づき、何を学ぶかによって人の真価が問われる。常に学ぶことを習慣にしていこう。

一 今まで見てきて「叱られっぷり」が善い社員の方が自分を見つめ直すことができ、他者への配慮ができるようになる。

叱られっぷりの悪い社員は成長のチャンスを逃し、やがては誰も注意しなくなる。

叱られた時の心の持ち方でどこまで自己を成長させられるかが決まる。

毎週朝礼で社員と自分に対して課題を投げかけています。

1603 嶋尻行雅

#### 朝礼での週報10ヶ条抜粋

一 週報で名前を挙げて鼓舞できる社員とそうでない社員がいる。

前者はプラス志向なので問題がないが後者はどうしたらよいのか思案してしまうので名前を挙げないことが多い。あなたはどのタイプなのか考えてみよう。この先言われて努力した社員に成功の女神は微笑むだろう。

一 会議中や朝礼中に人が話をしているのに別の仕事をする社員がいる。

以前も注意される場面を目にするがその時だけで次には同じ行動をする。職場とは共同作業の家に成り立っている。一人の身勝手な行動がマイナスの空気を生み出す事は注意したい。強調する心を育てていこう。

毎週朝礼で社員と自分に対して課題を投げかけています。

1604 嶋尻行雅

#### 朝礼での週報10ヶ条抜粋

一 「あの監督さんやあのメーカーさんは僕には何も言わない」と言う社員がいる。

本人にしてみれば自分自身を評価していると言いたいのだろうが果たしてそうなのだろうか。言い辛い人、興味を抱かない人のはそう判断すると考えよう。人は素直で伸び代がある人ほど教えたがる。

一 いつも言っているが社用車に乗ると後部座席にカタログやヘルメット等が散乱していることがある。社員同士ならまだしょうがないで済むがお客さんだったらどう思うだろうか。その状態が仕事に反映すると思われないだろうか。目で見える情報は大事。お客様の視点に徹しよう。

毎週朝礼で社員と自分に対して課題を投げかけています。

1605 嶋尻行雅

#### 朝礼での週報10ヶ条抜粋

一 「やる気のスイッチ」という言葉が出るCMがある。我が社に置き換えるとそれは毎日の朝礼だと思う。出勤するまでが家庭人だとすれば、朝礼は現場人になるための儀式だと考えよう。朝礼は仕事への自覚を深める儀式にしたい。毎日働ける喜びを分かち合う会社にしよう。

一 我が社では朝礼や会議で発言することが多い。その中で周りの社員に対して丁寧に発言しているつもりでも知らぬ間にぞんざいな言葉遣いになっていることがある。

無意識的に口につく一言が自分の本音として現れるものだ。常に謙虚な態度で接し良好な関係を築いていこう。

毎週朝礼で社員と自分に対して課題を投げかけています。

1606 嶋尻行雅

#### 朝礼での週報10ヶ条抜粋

一 6月決算が終わり、7月から新しい期が始まる。「今年の衣食は去年の産業にあり、来年の衣食は今年の艱難にあり」二宮尊徳の言葉。

今年豊かな衣食に恵まれて生活できるのは昨年仕事をしたから、来年衣食に恵まれるのは今辛い中でも努力して働くからという意味。今期も皆で力を合わせ頑張っていこう。

一 每期目標が更新、新たなチャレンジが待っている。そのチャレンジが失敗に終わればまた一からの出直しになってしまう。世に名を残すにあたっては継続的な目標達成が必要だ。業界に生きる我々は好成績を残し「記憶に残る人」を目指していこう。

毎週朝礼で社員と自分に対して課題を投げかけています。

1607 嶋尻行雅

#### 朝礼での週報10ヶ条抜粋

一 7月から新期が始まったが今期も毎週週報を書いていく。

前田会長から毎週10個は大変だと言ってもらうが書き始めて5年目に突入した。

始めた頃は毎週の週報はとても無理と思っていたが会長の「ななかまど」は20年続いたのでその思いが心に響いている。ひとつのことに思いを込めてやり続けたい。

一 転職すれば初めはどんな職業でも新人並みの処理力しかない。

だから、一人前になるまでは猛勉強を続けなければならない。苦手な仕事にチャレンジすることで専門知識と幅広い人脈を養うことにつながる。結果、大きな実績と自身が身につく。

毎週朝礼で社員と自分に対して課題を投げかけています。

1608 嶋尻行雅

#### 朝礼での週報10ヶ条抜粋

一 人は周囲からみられていることで大きく成長する。特に営業においては見られている意識の強い社員は仕事の取り組みが高い。そうした姿勢が個を成長させていくのだと思う。メーカーさんや上司との同行営業を増やして見られる意識から魅せる意識に変われば業績も上がる。

一 目標を達成する社員とそうでない社員との差は紙一重。達成しない社員が不真面目で熱意がないわけではない。違いは粘り強さと忍耐力。達成しない社員は壁に行き当たった時に体裁のいい口実を見つけて努力を辞めてしまう。景気が悪い、仕事がないと言うが皆条件は同じ。

毎週朝礼で社員と自分に対して課題を投げかけています。

1609 嶋尻行雅

#### 朝礼での週報10ヶ条抜粋

一 「大将の戒め」という徳川家康の諺がある。上司というのは敬われているようで実は部下に絶えず落ち度を探られている。

恐れられているようで侮られ、親しまれているようで疎んじられているものである。

常に周りの人達には細心の注意を払って人に惚れられる存在を目指そう。

一 「愛嬌があって憎めない」「傍にいただけで元気がもらえる」といった人から好かれる人がいる。そうした人の共通点は「人を喜ばそう」「人を感動させたい」というサービス精神が旺盛な点だという。損得勘定や下心のない無償の行為が人の心に好感を与える。そうありたい。

毎週朝礼で社員と自分に対して課題を投げかけています。

1610 嶋尻行雅

#### 朝礼での週報10ヶ条抜粋

一 私達が手掛ける建築には人を幸せにする力と人の怒りを買う力が備わっている。

そのためには良い営業活動と良い工事管理が必要。あらゆる物件に求められるのは質の高い仕事。だから、お客さんの満足した笑顔を思い浮かべつつ、仕事をしよう。

幸せを提供する企業を目指そう。

一 仕事をする上で理由が分からずに叱られたりすることがある。しかし、ほとんどの場合は理由がある。逆上して大切なメッセージを逃してしまう「叱られ損」で終わるのではなく、自身を冷静に振り返ることが大切。叱られた時こそチャンスと捉え、自己の成長の糧としていこう。

毎週朝礼で社員と自分に対して課題を投げかけています。

1611 嶋尻行雅

朝礼での週報10ヶ条抜粋

一 「私は何についていないんだろう。上手くいかない」と自分に運がない事を嘆く時がある。失敗の責任を他に求めている限り、良い仕事はできない。

運がないと嘆く前に失敗の原因を探り、改める事項を改め、失敗の原因は自分にある事を知ろう。

一 たとえ小さな失敗でもうるさく注意する上司と上手にフォローしてくれる上司がいる。両社で優秀な上司はどちらかというと前者である。小さなミスでもうるさく叱られることで次はミスしないように心掛ける。厳しい上司がいると苦勞もするがその引き換えとして自身の仕事への実力が付くと心得よう。

毎週朝礼で社員と自分に対して課題を投げかけています。

1612 嶋尻行雅